「浜松案内人と歩いてまわる家康公ゆかりの地・・・」研修会

説明に聞き入る新入会員の皆さん

浜松・浜名湖ツーリズムビューローとの協力事業である同行ガイド１０月再開に向け、９月２３日(土)（秋分の日）、新入会員を対象に研修を行いました。参加者１５名を３グループに分け、家康対応プロジェクトのメンバーがガイド役として１名ずつ付きました。役員の皆さんが１１月の西部地区観光ボランティアガイド協議会の下見も兼ねて全体のバックアップに回りました。連休と重なり街中は大勢の人で賑わっていました。

歩いたのは、浜松駅から鍛冶町通り・肴町・五社神社・大手門跡を巡ってお城にいたる城下町コース。観光シーズンを目前に本番をイメージした研修になりました。「使い慣れない携帯スピーカーの音量調節」「雑踏の中で通行の邪魔にならない位置を確保しての説明」「３０分をめどに中間地点の五社神社に到着するペース配分」など、実際にお客様を連れてのガイドには、配慮すべきことが多いと感じました。

途中、参加者から「アクトタワーのヘリポートから写真を撮ったことがある」「戦火を潜り抜けたプラタナスは、子供の頃、鍛冶町通りのど真ん中にあった」など、ローカルな会話も聞かれました。本番のガイドでも、地元ならではの体験を交えた案内ができると良いのではないでしょうか。

広報部　馬渕　豊（南ブロック）

こぼれ話　遠州に残る伊奈忠次の足跡　「中泉御殿」

中泉御殿を移設した快真寺本堂

大河ドラマ「どうする家康」10 月 1 日の回より伊奈忠次が登場しました。家康の江戸を中心とした一大開発事業を支えたのが、利根川東遷工事をした伊奈忠次だとご存じの方も多いと思います。

関東をはじめ各地に忠次の官職名「備前」の名を冠した治水・利水工事の跡が残っています。この遠州地方にも伊奈忠次の足跡がいくつもあることが分かります。家康の関東での大事業は、浜松、駿府の城主だった時代の領国経営から始まっていたと言えるでしょう。

伊奈忠次の先祖は、その名からも分かるよう信濃国伊那にルーツがあり、熊蔵城の城主だったといいます。（後に伊奈家嫡男の通称は「熊蔵」となる）伊奈忠次は、三河一向一揆では父と共に一揆側に加わり三河から追放され、信康事件で再び出奔しますが、本能寺の変直後の「神君伊賀越え」で帰参を許されました。（「伊奈忠次の生涯」伊奈町教育委員会編）

五か国領有時代に行われた「中泉御殿」（磐田市中泉）の造営では、短期間にも関わらず、家康の意にかなった仕事をして称賛されたといいます。関東移封後も秀吉より家康の在京賄料として中泉１千石の領有を許されました。家康は、度々鷹狩りに訪れただけでなく、関ケ原の戦いや大坂の陣では、重要な作戦会議の場としても利用したようです。御殿の遺構は、磐田駅を中心としたエリアで発掘されています。現在も磐田市見付の西光寺に表門、中泉の西願寺に裏門、浜松市中区鴨江の快真寺の本堂には主殿の一部が転用され残っています。ボランティア仲間と快真寺を訪れた時には、幸運なことに御住職自ら、葵の紋の釘隠しや建築部材を再利用したことが分かるほぞ穴などを紹介してくださいました。

葵の紋が見える釘隠し

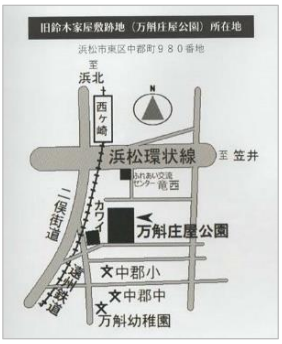
忠次の関東での活躍の基礎を培ったと思われる太田川の瀬替えや２万石にのぼる田畑を潤したといわれる寺谷用水建設など、現代にも生きる偉業に興味は尽きません。

広報部　馬渕　豊（南ブロック）

今、注目の人気スポットをご紹介！

古独礼庄屋（こどくれいしょうや）　旧鈴木家屋敷跡地を訪ねて　万斛庄屋公園（まんごくしょうやこうえん）

◆観光ボランティアガイドの会・24 期同期会開催



浜松市東区中郡町にある旧鈴木家屋敷跡地が整備されてそこにレストランができたということは、たしか新聞記事で知ったと思います。行ってみたいと思ったのと、24 期の同期会をやろうと思ったのは当初はリンクしていませんでしたが、結果として 24 期の食事会を旧鈴木家屋敷跡地の「万斛庄屋公園」の古民家レストラン鈴松庵（れいしょうあん）で７月１０日(月)に実施することとなりました。

鈴松庵にて（前列中央が村木理事長）

そこまで決まった後、せっかくなので隣の甘露寺の見学もという提案があり、昼食前には阿茶局ゆかりの甘露寺も見学しました。

当初の予定では万斛庄屋公園内は、食後に我々だけでぶらぶらと見学の予定でした。ところが食事が終わる頃、鈴松庵の運営会社である松川電気株式会社の小澤邦比呂社長と旧鈴木家跡地活用保存会の村木正彌理事長がサプライズで登場し、そこからは一気に鈴木屋敷についての勉強会に様変わりとなりました。村木理事長はガイドの会にも所属していたそうです（２期生）。その村木理事長の案内のおかげで公園内の貴重な歴史遺産を詳しく学ぶことができました。

この遺跡の歴史的な価値は言うまでもありませんが、村木理事長が最も苦心されたのはしごく現実的な問題、お金がない中でいかに整備保存するかという点であったそうです。飛鳥時代や鎌倉時代の遺構や遺物も出土するほどの歴史ある場所を保存・保護しつつ、地域の日常や緊急時に利活用できる実用的な公園として整備したことで、今の世の中に居場所を作ったという点が大変画期的であると思います。是非一度、万斛庄屋公園へ行ってみてください！

広報部　都築厚好（北ブロック）

◆JR さわやかウオーキング

屋敷門前にて

９月１８日(月)、朝９時に遠鉄上島駅を出発し、目的地の万斛庄屋公園の旧鈴木家屋敷跡を訪れました。屋敷門入り口のところで村木理事長自らお出迎えをしていただき、屋敷内を丁寧に説明していただきました。

初めて参加の人も多かったのですが、全員興味深く説明を聞いていました。帰りに村木理事長からもっとこの公園を多くの皆さんに訪問していただくためのアピールと、公園保存会のボランティア活動への積極的な参加を呼び掛けて欲しいとのお話がありました。

広報部　山田利夫（西ブロック）

◆村木保存会理事長の講演会・北ブロック 10 月定例会にて

９月 23 日(土)北ブロック定例会（浜松市北部協働センター）において、会員 19 名の参加で、旧鈴木家屋敷跡地活用保存会村木会長による講演会が開かれました。質疑応答を含めて 45 分間、鈴木家の歴史・屋敷跡地に残る建屋（母屋・離れ家・弓道場・祖霊社）等の歴史について古文書とともにわかりやすく説明してくださいました。

村木理事長の古文書による説明

６３０年前に住み始めた鈴木家は江戸時代、古独礼庄屋（藩主と直接謁見できる地域の有力な庄屋）で浜松藩から評価の高かった格式ある庄屋でした。現在の建屋は明治時代のものを改修しており、屋根だけを変え、室内のガラスや間取りは当時のままで日本の伝統的家屋の面影を遺しています。木材等はケヤキを使っているとのことです。また阿茶局が預けられていた御殿の見取り図は残っていますが、その御殿が敷地内のどこにあったのかは不明とのことです。いろいろと興味深いお話を伺うことができました。

事前に連絡すれば 60～90 分くらいの現地ガイドも実施してくださるそうです。歴史ある鈴木家屋敷をこんなにも身近に感じられるよう保存してくださっている方々への感謝とともに、今日の貴重なお話を今後のガイド活動につなげていきたいと思いました。

北ブロック　山影初枝

浜松科学館「みらい～ら」見学　西ブロック研修会

７月の末、殺風景だった犀ヶ崖資料館の手水鉢に水を入れて布袋草を浮かべてメダカを泳がせてみました。道端の花を摘んで来ては浮かべて花手水の真似をしたら、来館者が覗いていってくれることも多くなりました。またこの春、その資料館で新人研修をしていた、南ブロックの水谷穂波さんが群馬県のコンニャクの町から浜松へ引っ越され、科学館で学芸員をされていると聞き、早速西ブロックで見学を計画しました。水谷さんは、広報はままつ７月号に浜松科学館サイエンスチームの一員として紹介されています。

正面ホールにて

説明に聞き入る参加者

９月 19 日(火)見学希望者 13 名が科学館に集合、その内無料入場者が何人いたかのは秘密。飲食スペースを借りてわいわい賑やかにお弁当を食べた後は、いよいよ水谷さんの登場。

科学館は５つのゾーンに別れています。「自然ゾーン」では浜松の地形や顕微鏡で見る昆虫や魚に驚きでした。「力ゾーン」では磁石のパワーを使って砂鉄でお絵かき、アヒル隊長を浮かべて水の流れの観察。「音ゾーン」では目に見えない音の世界を体験。「光ゾーン」では鏡の中でも格好いい自分を確認、世界初のブラウン管に映るイの字。そして「宇宙ゾーン」ではカミオカンデの中に VR で入る事ができます。水谷さんの解説で難しい科学も分かりやすく、あっという間に時間が過ぎて行きます。そして最後は何十年振りかのプラネタリウム。満天の星空にロマンチックな気分になっていたら、どこからかいびきが聞こえて来ましたよ。お疲れ様ですもんね。科学館の皆さん、ありがとうございました。また行こうかな。

西ブロック　飯尾　隆

会員の交流広場

浜松城天守再建の立役者・大林稔

一人の浜松人を紹介します。その人の名前は「大林稔」です。この方は、私たちがガイド活動のホームにしている現在の浜松城の再建に大変貢献しました。明治維新後、浜松城跡は民間に払い下げられ、所有者は転々と変わりました。浜松城の再建が現実味帯びてきたのは、昭和 31 年に浜松市が、動物園や空中ケーブルカーを所有していた会社からこれらの施設と三千坪の浜松城跡を買収した頃からでした。そして、この浜松城の再建に最も力を入れたのが市議会議長を務めていた大林稔でした。彼は浜松城再建後援会（後に浜松城再建期成同盟会）を結成し会長に就任、再建に向けて動き始めました。

再建中の浜松城

ところが、この城の再建には幾多の難問がありました。建設費の出どころがなく、市議会筋からは「お城などという生活に不必要なものを造るより住宅や学校を造れ」「市財政が窮している昨今、城よりも実益のある事業に金を回せ」という反対意見が相当強硬にでたようです。しかし大林は「期成同盟会が発足した以上、事を成就させなければ引けるものではない！」「市費が出なければ寄付金によってでも建てて見せる！」と言い切り、反対派の声をよそに積極的な資金調達活動を展開しました。

天守二階の展示風景

その資金集めには大変苦労したようですが、①城の形の拠金箱での募金②市職員からの拠出③企業や団体からの特殊寄付④市のオートレース利益金の拠出⑤一時的な市債の発行等様々な手立てを講じ、総工費 1395 万円を賄い、昭和 33 年４月に竣工の運びとなりました。

大林は昭和 29 年５月から４期にわたって浜松市の議決機関の長を勤め上げ、在任中の業績は行政改革、小中学校の改築、市営オートレース場の健全経営化、駅前整備等枚挙にいとまがない「名議長」だったようです。このような実力議長のリーダーシップがあったからこそ、浜松城の再建がなされたという歴史があることを、心に留めておきたいものです。

尚、この稿は「浜松市史４」「東海展望」「当時の新聞」等を参考に作成しました。

中ブロック　小池孝幸

会員の交流広場

中国舞踊と私

森林公園野外ステージで

今では中国舞踊一筋の私ですが、実は３歳からモダンバレエを始め、高校卒業まではかなり熱心に踊っていました。表現することが好きで、ミュージカルや演劇にも興味がありましたが（高校時代は演劇部）、高校卒業ぐらいには自分にはやはり身体表現が一番良いという結論に達しました。

大学卒業後、地元に戻り、教員を始めてからは細々とレッスンに通い、時々発表会にも出ていました。こんなに年をとって踊るなんてみっともないと言われたこともありました。でも踊ることが好きなのは事実。仕事も忙しかったので、中途半端に続けていました。

そんな折、夫の仕事の関係で中国に３年ほど住む機会に恵まれました。実は踊りの中でも中国舞踊には高校くらいから憧れていたので、これをチャンスとマンツーマンで習いました。元々バレエの基礎もあるので、すぐにそれなりに踊れるようになりましたが、中国舞踊の雰囲気がなかなか出るようにはなりません。日本帰国後も先生を探し、ずっと迷いがあったけど、正面から踊りと向き合おうと決め、体重も１０キロ落とし、毎朝毎晩柔軟体操を欠かさず、常に踊りのことを考える生活にシフトしました。

さて、夫はもともと音楽が好きで、彼も中国に行ったのを機に中国琵琶を弾くようになりました。帰国後中国琵琶を上達させるため、さらには中国文化の良さを多くの人に知ってもらいたい、という気持ちから、夫と二人でユニット「胡蝶之夢」を結成しました。夫が中国琵琶を弾き、私がその演奏に合わせて中国舞踊を踊ります。両方とも日本ではまだ珍しいので、ちょっと興味を持ってもらえることが多いです。

中国舞踊は大きく二つに分かれます。古典舞踊と民族舞踊です。古典舞踊は京劇などの舞踊部分を取り込んだもので、宮廷で踊っているイメージです。民族舞踊というのは、中国は５６の民族で構成されているので、それぞれの民族の踊りです。代表的なのが、モンゴル族、ウイグル族、チベット族の踊りです。民族ごとに動きが全然違って面白いです。私はモンゴル族舞踊が一番自分に合うような気がします。

日本で報道されるニュースは、中国に対するマイナス面が強調されているので、日本人の中国に対する好感度は低いです。歴史を振り返ると、中国から日本に輸入され、現在でも私たちの生活の一部になっている文化は数え切れません。両国国民相互の国民感情がよくなって、より多くの文化交流が生まれることを願って、もちろん一番の動機は「踊ることが楽しいから」ですが、これからも活動を続けていきたいと思っています。

広報部　松沼素子（南ブロック）

９月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの３カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜松城団体ガイド≫

１日　金	城西国際大学	50 人
７日　木	浜松市立有玉小学校萩丘分校	３人
８日　金	浜松市立相生小学校	97 名
28 日　木	浜松市立広沢小学校	50 名

≪同行ガイド≫

28 日　木	浜松市立広沢小学校	50 名

≪浜松まつり会館≫

２日　土	穴吹トラベルツアー　他計４日	247 名

≪犀ヶ崖資料館≫

７日　木	中部地域づくり協会浜松会	22 名
	浜松市立神久呂小学校	５名
15 日　金	浜松市立浦川小学校	８名

はままつ案内人会報　255 号
編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946　浜松市中区元城町 100-2　(浜松城内)
ＴＥＬ　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　http://www.hama-svg.jp/
はままつ案内人　検索

浜松
家康公ゆかりの地